

在宅精神障害者のエンド・オブ・ライフケア (EOLC)

① 共同研究・産学連携への意気込み



教授
郷良 淳子

この研究は、日本だけでなく海外でもまだ新しい研究です。しかし、システムが未開発であるため事例の集積もままなりません。一緒に事例を集積とその分析を行い、実践での看護の質を上げたいと思います。

② 想定される連携先・移転先

さらなる事例の集積と実践の分析のため、精神障害者の看取りを行う訪問看護ステーション、在宅療養支援診療所をはじめとする、医療機関および大学の研究室と共同研究を希望します。

キーワード

精神障害者、在宅看護、エンド・オブ・ライフケア【EOLC】、事例集積、モデル構築

研究内容

長期入院をしている精神障害者の退院促進が進む中、地域での精神障害者の高齢化が課題となっています。一方で、精神障害者の地域での看取りはほとんど明らかになっていません。そこで、訪問看護および精神科病棟や緩和ケア病棟において、看護職が対応した終末期にある精神障害者の事例の集積と、そこでの工夫や困難の実態を明らかにします。その分析をもとに、地域での精神障害者のエンドオブライフケア【EOLC】のモデル構築をすることを目指して研究に取り組んでいます。

そのモデルの実践での評価を行う予定です。

1. 海外での研究成果を概観し、まとめます。
2. 1を基に在宅精神障害者の概念分析を行います。
3. 日本での在宅精神障害者のEOLCについて、看護職が体験した事例を集積し、ケアに必要な内容及び課題を明らかにします。
4. 2-3を基に在宅精神障害者のEOLC実践モデルを構築します。
5. 4を基にした実践を行い、評価・修正を行います。